

総合メディカルゾーン メディカルストリート開通記念式典

日時 平成31年2月2日（土）
午後2時30分から

次第

<敬称略>

1. 開式
2. 挨拶 徳島県病院事業管理者 香川 征
3. 式辞 徳島県知事 飯泉 嘉門
徳島大学学長 野地 澄晴
4. 来賓祝辞 徳島県議会議長 重清 佳之
5. テープカット 徳島県知事 飯泉 嘉門
徳島県議会議長 重清 佳之
徳島大学学長 野地 澄晴
徳島県病院事業管理者 香川 征
徳島大学病院長 永廣 信治
徳島県立中央病院副院長 八木 淑之
6. 閉式



○「総合メディカルゾーン構想」とは

「総合メディカルゾーン構想」は、「救急を始めとする政策医療を担う急性期の中核病院である『県立中央病院』」と「教育・研究や高度医療の提供を行う特定機能病院である『徳島大学病院』」という異なった特性を持つ県下の基幹病院が隣接している「全国にも例のない地理的条件」を最大限に活かして、両病院の機能整備をはじめとした交流を深め、県内医療の拠点としての「総合メディカルゾーン」の整備を進めていくとした平成17年8月の「知事と学長の合意」からスタートしています。

平成17年8月 基本合意

平成18年9月 基本合意の具体化に向け、両病院間の連絡橋整備など主にハード面で推進すべき事項について合意

平成21年10月 「医療の拠点化」や「教育の拠点化」等に関する事項について合意

○これまでの成果

<両病院をつなぐ「連絡橋」の設置>

「医療従事者の交流」や「患者移送の迅速化」に大きな効果を発揮

平成29年度利用件数 23,770件（月1,981件）

<周産期医療の拠点化>

MFI CU（母胎・胎児集中治療管理室）及びNICU（新生児集中治療管理室）を有する徳島大学病院と、NICU（新生児集中治療管理室）を有する県立中央病院間における連絡橋を活用した病床の一体的利用

<徳島がん対策センターの共同設置>

県の中心的ながん診断機能を担う「県がん診療連携拠点病院」である徳島大学病院と、地域のがん診療の拠点となる「地域がん診療連携拠点病院」である県立中央病院が共同で運営

<教育体制の強化>

両病院を主軸とする「総合メディカルゾーン重点研修プログラム」による若手医師の育成や、中央病院救命救急センターへの徳大指導医の配置、診療科の合同カンファレンスの開催などによる教育体制の強化

<医薬品、診療材料の共同交渉>

医薬品や診療材料の共同交渉による調達

平成29年度共同交渉実施 医薬品26品目 診療材料473品目

など

○両病院の外構整備完成

外構整備が完成し、「両病院を結ぶ主要道路（メディカルストリート）」が開通したことから、「駐車場」の一体的運用を開始いたします。

総合メディカルゾーン 全体図

